

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-309745

(43)公開日 平成7年(1995)11月28日

(51)Int.Cl. <sup>4</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 9/08		B		
A 6 1 J 3/00	3 1 2			
A 6 1 K 38/00	A C L			
			A 6 1 K 37/ 02	A C L

審査請求 未請求 請求項の数7 F D (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平6-125840

(22)出願日 平成6年(1994)5月17日

(71)出願人 000204767

大協薬品工業株式会社  
東京都練馬区桜台2丁目23番地

(72)発明者 石黒 文子

富山県富山市水橋島等173 大協薬品工業  
株式会社内

(72)発明者 石黒 淳一

富山県富山市水橋島等173 大協薬品工業  
株式会社内

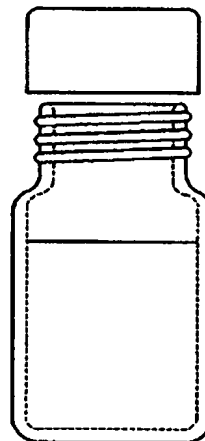
(74)代理人 弁理士 佐藤 正年 (外1名)

(54)【発明の名称】 薬飲用補助液及び薬飲用補助剤

(57)【要約】

【目的】 胃を荒らすことの多い薬の内服を容易にする  
ための、水を主成分とする薬飲用補助液を得る。

【構成】 薬の内服のための水を主成分とする薬飲用補  
助液に胃粘膜保護剤を含有するもの。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 薬の内服のための水を主成分とする薬飲用補助液であって、

胃粘膜保護剤を含有することを特徴とする薬飲用補助液。

【請求項2】 前記胃粘膜保護剤がガストリックムチンであることを特徴とする請求項1に記載の薬飲用補助液。

【請求項3】 薬の内服のための水を主成分とする薬飲用補助液を開封可能な密閉容器に封入した容器入り薬飲用補助液であって、  
前記補助液が、前記密閉容器の全容量の50～90%の容量比で封入されていることを特徴とする容器入り薬飲用補助液。

【請求項4】 前記密閉容器が、開封可能な密閉蓋を有する透明又は半透明の瓶であることを特徴とする請求項3に記載の容器入り薬飲用補助液。

【請求項5】 前記密閉容器が、開封可能な密閉蓋を有する広口容器であることを特徴とする請求項3に記載の容器入り薬飲用補助液。

【請求項6】 薬を内服する際に飲用される水に溶かして用いる薬飲用補助剤であって、  
胃粘膜保護剤を含有することを特徴とする薬飲用補助剤。

【請求項7】 前記胃粘膜保護剤がガストリックムチンであることを特徴とする請求項6に記載の薬飲用補助剤。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は例えば薬の内服を容易にするための水を主成分とする薬飲用補助液及び薬を内服する際に薬と共に飲用される水に溶かして用いる薬飲用補助剤に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 一般に、薬は、胃では殆ど吸収されず、腸で吸収される。薬の成分の中には胃を荒らすものが多い。また、外出先で薬を服用する必要がある場合、薬の服用を助ける水が手に入らないこともある。また、自動販売機等で売られている缶入りお茶、缶ジュースや缶コーヒーでは、薬が飲み難い場合もある。また、自宅の場合でも水道水は、カルキ臭があるなど、そのまま飲用に適さないことが多い。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、胃を荒らすことの多い薬の内服を容易にするための、水を主成分とする薬飲用補助液及び水に溶かして用いる薬飲用補助剤を得ることを目的とする。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 本請求項1に記載の発明に係る薬飲用補助液では、薬の内服のための水を主成分

とする薬飲用補助液であって、胃粘膜保護剤を含有するものである。

【0005】 本請求項2に記載の発明に係る薬飲用補助液では、請求項1又は2に記載の胃粘膜保護剤がガストリックムチンであるものである。

【0006】 本請求項3に記載の発明に係る容器入り薬飲用補助液では、薬の内服のための水を主成分とする薬飲用補助液を開封可能な密閉容器に封入した容器入り薬飲用補助液であって、前記補助液が、前記密閉容器の全容量の50～90%の容量比で封入されているものである。

【0007】 本請求項4に記載の発明に係る容器入り薬飲用補助液では、請求項3に記載の密閉容器が、開封可能な密閉蓋を有する透明又は半透明の瓶である。

【0008】 本請求項5に記載の発明に係る容器入り薬飲用補助液では、請求項3に記載の密閉容器が、開封可能な密閉蓋を有する広口容器である。

【0009】 本請求項6に記載の発明に係る薬飲用補助剤では、薬を内服する際に飲用される水に溶かして用いる薬飲用補助剤であって、胃粘膜保護剤を含有するものである。

【0010】 本請求項7に記載の発明に係る薬飲用補助剤では、請求項6に記載の胃粘膜保護剤がガストリックムチンである。

## 【0011】

【作用】 本発明1においては、薬の内服のための水を主成分とする薬飲用補助液に胃粘膜保護剤を含有するものであるため、薬を服用する際に、胃を荒らす副作用があるおそれのある薬を服用しても、飲用者の胃を保護することができる。

【0012】 この胃粘膜保護剤としては、種々の条件を有するが、服用する薬の作用を阻害しない保護剤より選ばれることが肝要である。例えば、外出先で薬を服用する必要がある場合に、薬の服用を助ける水が手に入らないこともあり、自動販売機等で販売されている缶入りお茶、缶ジュースや缶コーヒーでは、体内で缶ジュースや缶コーヒーの成分と薬が反応して、薬効を減少させたり、不要な副作用を生じるおそれがある。また、自宅の場合でも水道水は、カルキ臭があるなど、そのまま飲用に適さないことが多い。例えば、お茶の成分のタンニンは鉄剤の成分と反応して、薬効を損なうことは知られている。これによって、服用する薬の薬効を阻害することがなく、胃を保護することができる。

【0013】 また、薬の服用に際して、嗜好の問題ではあるが、無味無臭に近い保護剤である方が、有利である。そこで、この胃粘膜保護剤として、無味無臭の保護剤より選ばれてなるものを用いる。これによって、得られる薬飲用補助液に保護剤が有する特別な味や臭いをごまかすための処置を必要としない。

【0014】 以上の薬飲用補助液の胃粘膜保護剤として

は種々のものを用いることができる。例えば、臓器抽出成分製剤として、ガスタミン、スクラルファート、アルジオキサ、グアレネートナトリウム、ゲファルナート、テブレン、プログルミド、甘草エキス、カツミレ、アカメガシワ、カンゾウ、サンザシ、ウコン、オタネジンジン、ガジュツ、アズレンスルホン酸ナトリウム、L-グルタミン、銅クロロフィリン塩、メチルメチオニンスルホニルクロライド等の製剤から、細かな脂肪の球がコロイド状態で液内に漂うもの等があるが、本発明2では、特に無味無臭に極めて近いガストリックムチンを用いる。

【0015】ところで、薬を飲む際には、口の奥に薬を投入して、顔を上に向けたまま、水と共に流し込むが、この際、容器に一杯の液体が入った場合には、一旦顔を下に向けなければならない。また、顆粒状の薬等で、一旦水に溶かして飲む場合には、容器に一杯に液体が入っていると液体があふれる。

【0016】そこで、本発明3では、薬の内服のための水を主成分とする薬飲用補助液を開封可能な密閉容器に封入した容器入り薬飲用補助液が、この密閉容器の全容量の50~90%、好ましくは60~80%、更に好ましくは70%の容量比で封入されているものでは、口の奥に薬を投入して、顔を上に向けたまま飲み下すことができる。また、顆粒状の薬等で、一旦水に溶かして飲む場合にも、液体があふれることがない。

【0017】また、本発明4では、この容器入り密閉容器が、開封可能な密閉蓋を有する透明又は半透明の瓶であるものでは、一旦液体に薬を溶かす場合に、密閉容器を開封し、その中に薬を投入し、更に密閉して容器を振って薬を溶かすことができる。また、全量の50~90%、好ましくは60~80%、更に好ましくは70%前後の容量であるため、良好に混ざり合う。更に、無色又は色付きの透明又は半透明であるため、溶かそうとする薬が溶けたか否かを観察することができる。

【0018】また、このような密閉容器としては、ガラス製、プラスチック製の容器を用いることができるが、その形状としては、如何なる形状の容器であってもよいが、好ましくは、本発明5では、開封可能な密閉蓋を有する広口容器であるものがよい。これは、薬を飲む場合に、容器の口が狭いと、中の液体を一気に飲込めないからである。

【0019】これら薬飲用補助液としては、服用する薬の作用を阻害しないならば、矯味剤又は矯臭剤を添加して、好みの味や香を付けてもよい。例えば、矯味剤として、薬が持つ苦味を弱めるもの、具体的には、甘味料や食塩等を添加しても何ら差支えるものではない。この甘味料としては、具体的にはサッカリンナトリウム、単シロップ、白糖、果糖、ハチミツ、トウヒシロップ、アスパルテーム、ステビア、還元麦芽糖等がある。

【0020】また、例えば、矯臭剤として、芳香油を添

加しても何ら差支えるものではない。この芳香油としては、具体的にはL-メントール、ハッカ油、ハッカ水、ユーカリ油、ローズ油、ウイキョウ油、オレンジ油を始めとして、アニス、ショウキョウ、ケイヒ、チンピ、トウヒなどのエキス及びチンキ等がある。その他の添加物としては、カンゾウ末、サフラン、クエン酸、酒石酸、アスコルビン酸、保存剤、粘稠剤、着色剤等を添加してもよい。また、その他、薬の吸収を補助するもの等を添加しても問題はない。

【0021】一方、本発明6では、胃を荒らす副作用があるおそれのある薬を服用する際に、飲用される水に溶かして用いる薬飲用補助剤をも開示するものである。即ち、この補助剤に胃粘膜保護剤を含有するものでは、胃の弱い人であっても、その飲用者の胃を保護することができる。この胃粘膜保護剤としては、前述のように服用する薬の薬効を阻害することなく、胃を保護するために、服用する薬の作用を阻害しない保護剤より選ばれる。

【0022】また、この胃粘膜保護剤が無味無臭に近い保護剤より選ばれてなるものでは、補助剤を溶かして得られる薬飲用補助液に保護剤が有する特別な味や臭いをごまかすための処置を必要としない。

【0023】以上の薬飲用補助剤の胃粘膜保護剤としては種々のものを用いることができる。例えば、臓器抽出成分製剤として、ガスタミン、スクラルファート、アルジオキサ、グアレネートナトリウム、ゲファルナート、テブレン、プログルミド、甘草エキス等の製剤から、細かな脂肪の球がコロイド状態で液内に漂うもの等があるが、特に本発明7では、無味無臭に極めて近いガストリックムチンを用いる。

【0024】また、これら薬飲用補助剤としては、服用する薬の作用を阻害しないならば、矯味剤又は矯臭剤を添加して、好みの味や香を付けてもよい。例えば、矯味剤として、薬が持つ苦味を弱めるもの、具体的には、甘味料や食塩等を添加しても何ら差支えるものではない。この甘味料としては、具体的にはサッカリンナトリウム、単シロップ、白糖、果糖、ハチミツ、トウヒシロップ、アスパルテーム、ステビア、還元麦芽糖等がある。

【0025】また、例えば、矯臭剤として、芳香油を添加しても何ら差支えるものではない。この芳香油としては、具体的にはL-メントール、ハッカ油、ハッカ水、ユーカリ油、ローズ油、ウイキョウ油、オレンジ油を始めとして、アニス、ショウキョウ、ケイヒ、チンピ、トウヒなどのエキス及びチンキ等がある。その他の添加物としては、カンゾウ末、サフラン、クエン酸、酒石酸、アスコルビン酸、ビタミンB<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、B<sub>6</sub>、ニコチン酸アミド、保存剤、粘稠剤、着色剤等を添加してもよい。また、その他、薬の吸収を補助するもの、賦形剤、結合剤、崩壊剤、着色剤、を添加しても問題はない。

【0026】更に、薬飲用補助剤の形態としては、水に

(5)

特開平7-309745

【図1】



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **07-309745**

(43)Date of publication of application : **28.11.1995**

---

(51)Int.Cl.

A61K 9/08

A61J 3/00

A61K 38/00

---

(21)Application number : **06-125840**

(71)Applicant : **DAIKYO YAKUHHN KOGYO KK**

(22)Date of filing : **17.05.1994**

(72)Inventor : **ISHIGURO FUMIKO**  
**ISHIGURO JUNICHI**

---

### **(54) AUXILIARY LIQUID FOR DRINKING MEDICINE AND AUXILIARY AGENT FOR DRINKING MEDICINE**

#### **(57)Abstract:**

**PURPOSE:** To obtain an auxiliary liquid for drinking medicines, containing an agent for protecting gastric mucous membrane and consisting essentially of water for facilitating internal use of the medicine and to obtain an auxiliary agent for drinking medicine, used by dissolving in water.

**CONSTITUTION:** This auxiliary liquid consisting essentially of water is obtained by adding an agent for protecting gastric mucous membrane (e.g. gastric mucin) to auxiliary liquid so as to facilitate internal use of medicines which are prone to roughen the surface of the stomach.

The auxiliary liquid for drinking medicine is sealed in a volume ratio of 50-90% based on total volume into an openable hermetically sealed container to provide a container-housed auxiliary liquid for drinking medicines. A transparent or translucent wide-mouthed bottle made of glass or plastics is preferably used as the hermetically sealed container. This auxiliary agent for drinking medicines is used by dissolving it in water to be drunk when a medicine is internally taken to protect stomach of person having a weak stomach.

---

#### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than

the examiner's decision of rejection or  
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office